

## 事業企画書

団体名	弘前市栄町町会		
事業名	初めての避難訓練 ※ <input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続 (同じ事業での申請 <u>0</u> 回目)		
事業実施 予定の期間	平成28年7月10日 ~ 平成28年11月31日		
事業実施 予定の場所	栄町町内全区域 (栄町町会会館及び緑地公園)	参加予定の 人数	60人

○今回申請する事業についてお書きください。

この事業を始める ことになったきっかけや、事業実施の目的は何ですか。  【審査の視点 : 必要性】	(きっかけ)  栄町は、昨年に「自主防災会」を立ち上げました。当町会での世帯数(市住民基本台帳 H27.2.1 現在)は、550 戸ほどあり、人口も約 1,200 人程度おります。 しかし、町内に住んでいる町民は年々高齢化が進んでいるため、災害時にはいち早く避難することが非常に難しいことが予想されます。また、今まで町民に対する『災害』等を想定した避難訓練は、一度も実施したことがありません。 いざ、『災害』等が発生した時にはどうなるのかが非常に心配なことです。
	(目的)  栄町では、町民同士のコミュニケーションの一環として、「夏まつり」や「ねぶた祭」をそれぞれ隔年毎に交互で実施しております。  しかし、町民が年々高齢化傾向にあるため、非常に苦慮している現状です。 このような状況を踏まえ、町民に対して『災害』時に支援活動を図ることとして、昨年「自主防災会」を結成しております。 このことから、いざ『災害』等が発生した時には、「自主防災会」担当者がそれぞれどのように行動しかつ町民を安全に避難誘導を図るべきか、また町民自らが参加しつつ毎年『避難訓練』を実施して、その必要性を認識して貰うことを目的にしています。
この事業は、どのような人のために、どのような内容・方法で実施しますか。  【審査の視点 : 公益性、 実現性】	(対象となる人)  ・「栄町自主防災会」担当者 ・婦人部 ・老人クラブ ・町民有志  (内容・方法)  ・『災害』時において、「自主防災会」担当者への伝達訓練

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大規模地震」時に対する「一時避難場所（町会会館・緑地公園）」までの避難訓練</li> <li>特に、高齢者及び負傷者の安全な避難誘導方法</li> <li>・一時避難者への炊き出し訓練</li> <li>・消火訓練</li> </ul>
--	---

○実施スケジュールについてお書きください。【審査の視点：実現性】  
 （準備作業から事業終了後の報告まで、できるだけ具体的にお願いします。）

日程（月日）	実施内容	場 所	時 間	参加者数等
7月15日	担当者打ち合わせ （計4回）	栄町町民会館	各2時間	15人
9月1日	町民へ「避難訓練実施 のお知らせ」広報	町民への毎戸配布 ポスター張り		
10月1日	「避難訓練」実施	栄町町会会館・緑地 公園	10時 ～14時	
10月20日	反省会 実績報告書作成	栄町町会会館		15人

○申請する事業の実施効果についてお書きください。【審査の視点：公益性】

<p>この事業を実施することによって、市民や地域に対してどのような効果が期待できますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当町会は、昨年度『弘前市自主防災組織育成事業』の支援の下で「自主防災会」を結成しました。弘前市の自主防災組織率は、まだ14.5%（2015年4月1日現在）しかありません。今後、未組織の町会等にも、本事業を実施することにより、組織率向上の一翼を担えればと思っております。</li> <li>・本事業を実施することにより、「自主防災会」担当者がそれぞれの役割分担等を確認することが可能となります。</li> <li>・「自主防災会」担当者と「婦人部」・「老人クラブ」等との連携確認が可能となります。</li> <li>・初めて参加された町民方が、自らどのように行動するべきが可能となります。</li> </ul>
--	--

○来年度以降の事業の展開についてお書きください。 【審査の視点：将来性】

来年度以降のこの事業を、どのように継続・展開させていく予定ですか。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 今回の実施結果を踏まえつつ、『災害はいつ発生しても安心』と思えるように、次年度以降も毎年同様な活動計画を進めます。</li><li>・ 町民に対して、訓練の参加対象範囲を今後徐々に広げていく方向で考えております。</li></ul>
-----------------------------------	--

○来年度以降の財源についてお書きください。

来年度以降も、同じ事業での補助金申請を要望しますか。	<p>( <input checked="" type="checkbox"/> 要望する ・ 要望しない )</p> <p>いつまでをお考えですか。平成(30)年まで</p>
----------------------------	--

○他の補助制度の活用についてお書きください。

今回申請した事業について、ほかに活用する補助制度はありますか。	<p><input checked="" type="checkbox"/> 無 ・ 有 (補助制度の名称: )</p>
---------------------------------	--

○保険についてお書きください。

事業を実施する際、保険へ加入する予定ですか。	<p><input checked="" type="checkbox"/> 加入しない ・ 加入する (保険の名称 )</p>
------------------------	--

## 2、栄町町会での災害時の対応の在り方について

### 1) 洪水時での考え方

『弘前市洪水ハザードマップ（平成21年3月作成）』によると、当栄町は岩木川氾濫で「浸水深が50cm未満」の被害区域になる想定がされております。

しかし、昨年に岩木川上流部に『津軽ダム』が完成され、現在湛水試験が行われており、近い将来ダム運用開始がされることから、このことによる洪水被害は当町会として想定（全然無ではないが）しておりません。

むしろ、岩木川反対の町会東側を流れている用水路があります。

この用水路は、岩木川の「湯口」付近から取水後、延々と流下しつつ公園西堀を經由して当町会の低い東側沿いを通過後に一部は岩木川に排水されながら向外瀬方面へ流下しています。

この用水路が、3～4年前に大雨で岩木川が増水したこともありますが、溢水して用水路付近の家屋の一部床下等の被害を生じたことがあり、町民から消防署への通報等があり、大変不安な状況でした。

弘前市での当町会の避難場所の指定は、『弘前中央高校』としてされておりますが、当町会は、町民の安全避難を考えて町会の西側を流下している「岩木川」より、東側を流下している「用水路」の溢水での被害が生じた時は、町内では、高くなっている栄町町会会館を『一時避難場所』と考えております。

### 2) 地震時での考え方

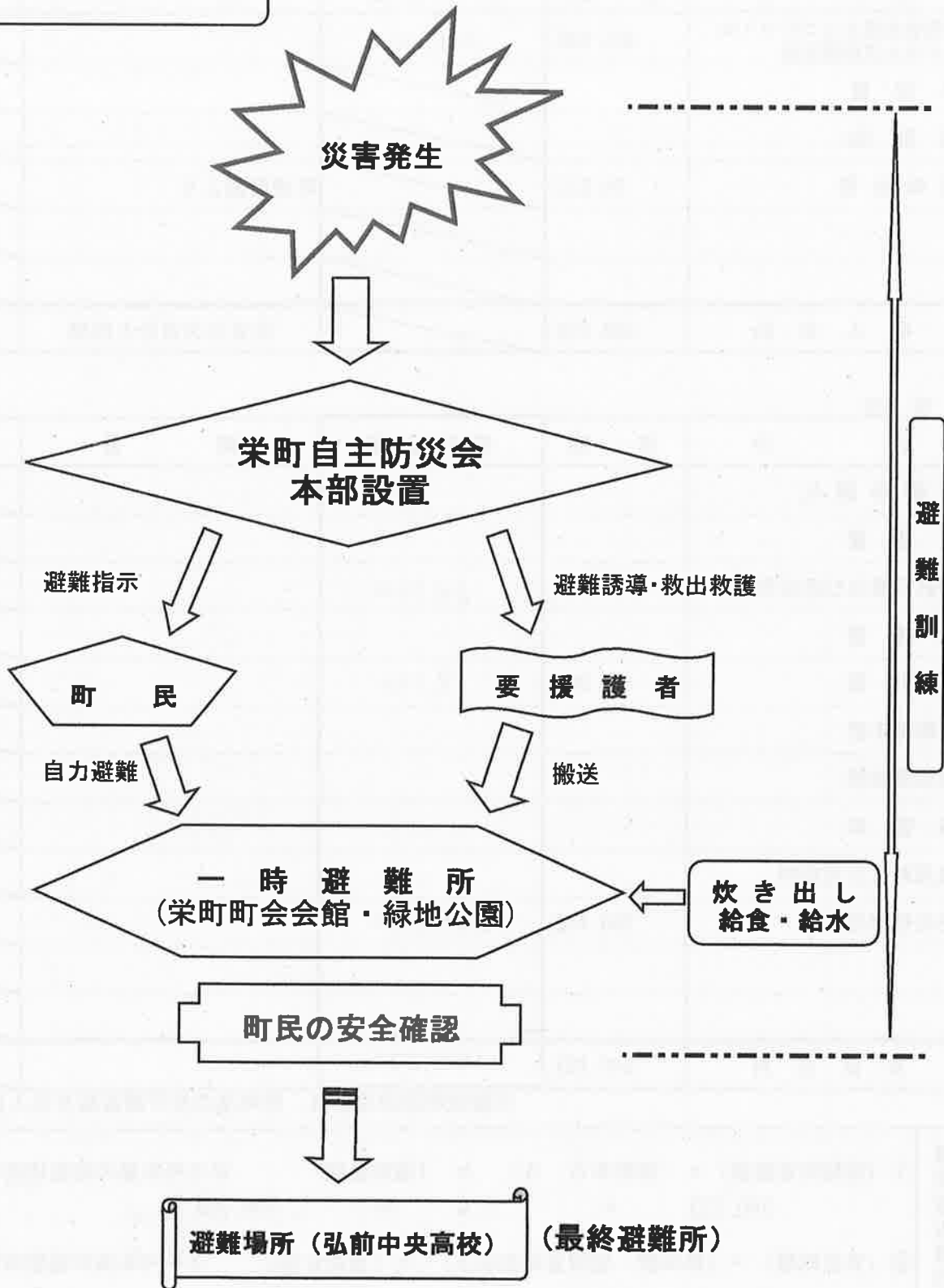
大規模地震が発生した時は、各家屋等が倒壊する等の被害が十二分に想定されます。

また、当町会会館は、昭和47年（1972年）に建てられておりますが、築年数も44年経過しさらに耐震構造となっていないことから、地震時には家屋と同様に非常に難しい状況が想定されます。

このことから、町民の避難者は、地震被害等で怯えきっておりますので、弘前市で指定している「避難所」へ即向かって危険ヶ所が発生しているかと想定されますので、日頃から親しんでいる町会会館付近の緑地公園を『一時避難場所』とします。

どちらでの災害時でも、一時避難所には『テント』を設置して炊き出し等を行いながら、町民の要援護者等の把握や他の町民の安全確認を行い、その後の状況確認等を行った後に、次の行動等へ移ることで考えております。

3、災害時のフロー



収 支 予 算 書

【審査の視点：費用の妥当性】

1 収 入

(単位：円)

区 分	金 額	採 択 金 額	摘 要	昨年度の 交付確定額
市民参加型まちづくり1% システム支援補助金	306,000	306,000		
参加費				
協賛金				
団体会費	34,232		町会財源より	
収入合計	340,232		※支出の合計と同額	

2 支 出

(単位：円)

区 分	金 額	採 択 金 額	摘 要	昨年度の 交付確定額
講師等謝礼				
交通費				
消耗品費及び原材料費	64,800	64,800		
食糧費				
燃料費	9,000	9,000		
印刷製本費				
通信運搬費				
保険料				
使用料及び賃借料				
その他経費	266,432	266,432		
支出合計	340,232	340,232		

※継続申請の場合は、昨年度の交付確定額を記入してください。

補助金の額の算定根拠	① (補助対象経費) × (補助率0.9) ≒ (補助金額) ※千円未満の端数切捨て
	340,232 × 0.9 ≒ 306,000 円
	② (支出総額) - (参加費・協賛金等の収入) ≒ (補助金額) ※千円未満の端数切捨て
	340,232 - 0 円 ≒ 340,000 円
①・②のいずれか少ない額 (補助金申請額)	306,000 円 (原則50万円を限度)

## 3 支出内訳書

(単位:円)

項 目	品 名	数 量	単 位	単 価	金 額	採択金額	摘 要
講師等謝礼							
交 通 費							
消耗品費及び 原材料費	非常用食品	60	人	500	30,000	30,000	ご飯、副食関係
	簡易食器	60	個	50	3,000	3,000	紙製
	ペットボトル水	20	個	150	3,000	3,000	
	水タンク(ポリ)	2	個	1,000	2,000	2,000	飲料用(20ℓ)
	"	4	個	1,000	4,000	4,000	トイレ及び手洗い用
	非常用折り畳み式バケツ	4	個	700	2,800	2,800	10ℓ用
	事務用品	1	式		20,000	20,000	PCインク、用紙等
食 糧 費							
燃 料 費	ガソリン代	1	式		5,000	5,000	緊急用発電機用
	灯油代	1	式		4,000	4,000	暖房・炊き出し用
印刷製本費							
通信運搬費							
保 險 料							
使用料及び 賃借料							
その他経費	折り畳み式リヤカー HK-150E(1200×800)	1	台		86,832	86,832	高齢者及び負傷者 運搬用
	テント(2K×3K) GK2号型	1	張		129,600	129,600	炊き出し用
	石油ストーブ(対流型)	1	台		30,000	30,000	暖房・炊き出し用
	卓上ガスコンロ	4	台	5,000	20,000	20,000	ガスボンベ込み
合 計					340,232	340,232	

## 備考

- 1 太枠内は記入しないでください
- 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦長としてください。
- 3 用紙が不足するときは、別紙を添付してください。